

令和2年8月6日
(資料提供)

(事務担当) 所属名：農林総合研究センター 農業試験場 総合研究部 病害虫防除室 直通：257-6972

令和2年度病害虫発生予報第5号について

今後発生が予想される水稻、大豆、果樹、野菜・花きの病害虫の発生量や防除上の注意事項について掲載します。

1 予報期間 8月上旬～8月下旬

2 予報内容

(1)水 稻

穂いもちの発生は**やや多**と予想される。出穂前後に降雨があると発生が拡大するので、この時期の防除は必ず実施する。

紋枯病の発生は**多**と予想される。防除を実施していない場合は、発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

斑点米カメムシ類の発生は**多**と予想される。水田への侵入量が多いため、出穂後の防除を徹底し、斑点米の発生防止に努める。防除後も斑点米カメムシ類の水田侵入が確認される場合、さらに追加防除を行う。

コブノメイガの発生は**多**と予想される。ほ場巡回に努め、発生を認めたら直ちに防除を実施する。

セジロウンカ、ツマグロヨコバイの発生は**やや多**と予想される。今後の発生に留意する。

(2)大 豆

ハダニ類、アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

カメムシ類の発生は**やや多**と予想される。幼莢期から子実肥大期に必ず防除を実施する。

(3)果 樹

ナシ黒斑病の発生は**やや多**と予想される。ポリオキシンおよびジカルボキシイミド剤は耐性菌が県内に広く分布しているため、散布回数をそれぞれ年1回にとどめる。

ナシ黒星病の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

リンゴ斑点落葉病の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

ハダニ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。発生源となる下草を刈り取った後、防除する。

(4)野菜・花き

疫病類の発生は**やや多**と予想される。降雨によって感染が助長されるので防除を徹底する。ほ場の排水およびハウス内換気に努める。

軟腐病の発生は**やや多**と予想される。作業中は作物を傷つけないよう注意するとともに、害虫防除を徹底する。

スイカつる枯病の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。ほ場の排水に努める。

ハダニ類、アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

ハスモンヨトウの発生は**多**と予想される。若齢期の幼虫の防除を徹底する。

※病虫害防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。